

OSAKA

NNAC



NICHE NEURO-ANGIOLOGY CONFERENCE, MAY 24, 2008

会の創設の趣旨

医療の現場では、より安全な、またより侵襲の少ない治療が求められ、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術や頸部頸動脈狭窄症に対するステント治療は、これら疾患の治療選択の中で重要な役割を担うようになってきました。

ところが、症例数が少ないために一人の医師が経験する機会が少なく、また一診療科だけでは対応が困難であるため、あまり顧みられてこなかった疾患があります。小児の脳血管奇形・血管障害や大人も含めた頭頸部の血管病変、特に「血管腫」と呼ばれてきた疾患などがそれに該当し、患者サイドから見るとほっておかれた分野でもあります。この分野の経験を皆で共用することは重要であり、責務であると思われまます。

また、血管の機能解剖は、安全な脳血管内治療のための基本であり、normal anatomy、variation、各種pathologyの認識は、学問的意義以上に疾患自体の理解に重要であると考えられます。

以上のような観点から、以下の分野を対象とした研究会を**2006年11月**に設立いたしました。

- ◆ 小児の脳血管奇形（動静脈瘻、動静脈奇形、ガレン大静脈瘤、硬膜動静脈瘻）、他の小児の血管病変すべて（脳動脈瘤、脳梗塞、静脈形成異常、静脈血栓症、他）。
- ◆ 頭・頸部血管病変（血管奇形・血管腫、若年性血管芽腫、他）。
- ◆ 系統疾患、症候群（HHT, Cobb, Wyburn-Mason, Parkes Weber, Phaces、他）。
- ◆ 脳血管の機能解剖、その歴史、血管発生（系統発生、個体発生）。
- ◆ 脳血管病変の病態・病因解明。
- ◆ 発生生物学や分子生物学的なアプローチ

発起人

小宮山雅樹（大阪市立総合医療センター、大阪）、廣常信之（広島市民病院、広島）

松丸祐司（虎の門病院、東京）、東 登志夫（小倉記念病院、北九州）

吉村紳一（岐阜大学、岐阜）、田中美千裕（亀田総合病院、鴨川）

新見康成（Roosevelt病院、ニューヨーク）

ホームページ

<http://nnac.umin.jp/>

事務局

小宮山雅樹（komiyama@japan-mail.com）

大阪市立総合医療センター 脳神経外科

〒534-0021 大阪府大阪市都島区都島本通 2-13-22

Tel 06-6929-1221、Fax 06-6929-1090

日時：2008年5月24日 土曜日 午前9時 - 午後6時20分 予定

場所：コミュニティープラザ大阪

〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島 3丁目1-7 3

電話：06-6454-1153

特別講演：JT 生命誌研究館 橋本主税 先生

「カエルの胚発生ではどのようにして頭尾軸が決まるのでしょうか？」

参加費（年会費・短報費を含む）：5,000円

服装 カジュアル、ノーネクタイでお越しください。

発表 一会場ですべて御自身のパソコンで口演で行ないます。

次演者もパソコンをつないでおいてください。

発言 所属や指名を明らかにすることは不要です。

そのまま活発なdiscussionをお願いします。

撮影 全ての発表に対して、カメラ・ビデオ撮影は禁止させていただきます。

（スタッフが発表者の撮影は行ないます）。

懇親会 本会終了後、バスでミナミに移動します。宴会場は、deepest Osakaを目指します。懇親会費：5,000円です。

コミュニティープラザ大阪までのアクセス

JR 環状線「福島駅」までの電車アクセス

JR 環状線「大阪駅」 → JR 環状線「福島駅」内回り・福島方面 1 駅

JR「新大阪駅」 → JR 環状線「大阪駅」 → JR 環状線「福島駅」

東海道線 大阪方面 1 駅 内回り・福島方面 1 駅

福島駅から徒歩 10 分



お車で

「大阪伊丹空港」からお車で → 約25分、「関西国際空港」からお車で → 約60分

NNAC Program コミュニティープラザ大阪 2008年5月24日

9:30-9:40 Opening message

大阪市立総合医療センター 小宮山雅樹 (10分)

9:40-11:40 1. 機能解剖

司会 広島市民病院 廣常信之、岐阜大学 吉村紳一
三重大学 当麻直樹

1-1 Rt. aortic arch & aberrant Lt. subclavian artery and Kommerell's diverticulum

広南病院 血管内脳神経外科 松本康史 (5+10分)

1-2 脈絡叢動脈の発生とそこからの塞栓術

虎の門病院 脳神経外科 松丸佑司 (10+10分)

1-3 片側もやもや病様内頸動脈閉塞と対側carotid reteを認めた1例

国立循環器病センター 脳神経外科 江頭裕介 (5+10分)

1-4 内頸動脈バルーン閉塞後とC5欠損の2症例における内頸動脈の再構築

日本医科大学千葉北総病院 脳神経外科 小南修史 (10+10分)

1-5 ICA segmental agenesis and collateral flow

中村記念病院 脳神経外科 瓢子敏夫 (10+15分)

1-6 脊髄の血管解剖、その血管撮影のbasic

北海道大学 放射線科 浅野 剛 (10+15分)

11:40-12:10 2. 歴史

司会 小倉記念病院 東 登志夫

2-1 ”江戸に吹いたエーゲ海の風”

副題:”神経の語源と蘭学者の苦悩“ ヘロフィルスやガレンから前野良沢へと伝えられた
pneuma についてその歴史を追い、脳解剖の医学史をレビューする

亀田総合病院 脳神経外科 田中美千裕 (20+10分)

12:10-13:00 昼食

13:00-13:40 3. 系統疾患・頭頸部血管病変

司会 亀田総合病院 田中美千裕、北海道大学 浅野 剛

3-1 遺伝性出血性毛細血管拡張症 HHT: overviewと肺のAVF、他

大分大学 放射線科 清末一路 (10+10分)

3-2 ISSVA分類による血管腫・血管奇形の鑑別診断とIVRの実際

大阪大学 放射線科 大須賀慶悟 (10+10分)

13:40-15:15 4. 病因論、分類、他

司会 大分大学 清末一路、城山病院 中澤和智

4-1 Topographic classification of brain arteriovenous malformations

大阪市立大学 脳神経外科 西尾明正 (10+10分)

4-2 Venous angioma (developmental venous anomaly) with AV shunt:

出血症例の予後と治療

徳島赤十字病院 脳神経外科 里見淳一郎 (5+10分)

4-3 海綿状血管腫と静脈奇形の合併 —最近の知見—

城山病院 脳神経血管内治療科 中澤和智 (10+10分)

4-4 頭蓋内硬膜動静脈瘻 osseous typeの検討

秋田大学 放射線科 高橋 聡 (5+10分)

4-5 脳硬膜動静脈瘻の病因論:実験データから成因論仮説へ

和歌山労災病院 脳神経外科 寺田友昭 (15+10分)

15:15-15:55 5. 概念

司会 大阪市立総合医療センター 小宮山雅樹

5-1 「カエルの胚発生ではどのようにして頭尾軸が決まるのでしょうか？」

JT 生命誌研究館 橋本主税 (30+10分)

15:55-16:10 休息

16:10-18:20 6. 小児の脳血管障害・奇形

司会 ルーズベルト病院 新見康成、虎の門病院 松丸裕司

日本医科大学 小南修史

6-1 頭蓋外から頭蓋内の内頸動脈の反応性内膜肥厚 を伴った小児脳梗塞の1例

荏原病院 脳神経外科 中村精紀 (5+10分)

6-2 胎児循環から生後の循環への移行:脳 AV shuntの循環器系への影響

大阪市立総合医療センター・小児医療センター

小児循環器内科 村上洋介 (10+10分)

6-3 Infantile dural AV shunts、全表在静脈洞の閉塞治療

大阪市立総合医療センター 脳神経外科 石黒友也 (5+10分)

6-4 Dural shuntを伴ったparasagittal pial AVFの1例

和歌山県立医科大学 脳神経外科 津本智幸 (5+10分)

6-5 出生前に診断された 無症状のvein of Galen aneurysmal malformationの管理、
neonatal scoreの役割と治療適応

三重大学 脳神経外科 当麻直樹 (5+10分)

6-6 急性水頭症で発症した vein of Galen aneurysmal malformationの1例
静岡県立こども病院 脳神経外科 石崎竜司 (5+10分)

6-7 Vein of Galen aneurysmal malformation とdilatationの鑑別、
水頭症を呈するVGAMの治療
ルーズベルト病院 血管内治療科 新見康成 (20+15分)

18:20 Closing Remark

大阪市立総合医療センター 小宮山雅樹

司会の先生方は、活発な discussion を進める、進行係役を御願いたします。

発言時に、所属や氏名を出すことは不要です。

時間表示(分)は、発表時間と discussion の時間の目安です。

本会終了後、バスで懇親会(19時開始予定)の会場へ移動します。

NNAC 2009 は、2009年6月6日(土曜日)大阪で開催の予定です。

Cover: pial arteriovenous fistula in a patient with hereditary hemorrhagic telangiectasia